

第五主日 召天者記念礼拝

午前 10:30-11:30
(YouTube 同時配信)

前奏・黙祷

招 詞 詩篇 71 篇 5-6 節 (旧約 1004)

賛 美 主のよみがえり (教会福音 139)

交 読 詩篇 126 篇 1-6 節 (旧約 1072)

主の祈り・使徒信条

召天者紹介と追憶のとき

聖書朗読 ヨハネの黙示録 14 章 13 節 (新約 508)

説 教 『今から後、幸いである』 松井 元始 牧師

応答のとき

賛 美 この世のいのちは (教会福音 338)

感謝祈禱

頌 栄 父・子・聖霊の (教会福音 271)

祝 祷

後奏・黙祷

* * *

報 告

本日は限定配信となります <https://youtu.be/fvyw78msbnA>

【献金は週報に添付の封筒を用いて、入口の献金かごにお入れください】

〈司会〉	〈奏楽〉	〈受付〉	〈聖書朗読〉	〈感謝祈禱〉
松井師	牧子師		司会者	

配信をご覧になれない方には CD を後日お届けしています。

週報は、メール・LINE 連絡網でもお届けできます。お申し出ください。

インマヌエル王子キリスト教会

牧師: 松井元始・牧子

〒114-0023 東京都北区滝野川 1-41-6 Tel 03-3910-4529

HomePage: <https://igm-ouji-church.jimdo.com/>E-mail: immanuelojichurch@gmail.com

郵便振込: 記号 00180-8 番号 11785

銀行振込: みずほ銀行 王子支店 普通 1364893



『今から後、幸いである』 (ヨハネの黙示録 14 章 13 節) 2023.10.29.

〈はじめに〉 若い頃の私は、葬儀や記念会が苦手でした。自分にとって死はまだ先のように思えたからです。しかし、年を重ねるほどに、また近い方々が召される毎に、この機会は幾重にも大切に思われます。誰にもやがて訪れるこの厳粛な事実に向ける貴重な機会だからです。

I ヨハネの黙示録について

① 完結の書

創世記で始まったこの世界の「終わり」を描く黙示録は完結の書です。預言的で象徴的な表現が駆使して今後起こり来る事柄を表し、それらに種々の解釈があることから、難解と思われがちです。しかし、時が進むほど、より身近に明らかになっているのも事実です。

② イエス・キリストの姿

「イエス・キリストの黙示」(1:1)で始まる本書にはキリストの栄光の御姿が描かれています。福音書が描く「人となられた神」とは対照的です。世の終わりに向けて、その栄光の姿が明らかになり、聖徒と御使いが賛美と礼拝を度々ささげ、究極的な勝利へと至ります。

③ 慰めと希望の書

最終的にこの世はキリストが勝利されるのですが、その過程には、悪と神に敵対するサタンとの戦いと地を襲う数々の災いを描いています。それらを恐れる者には目を背けたくなる絶望の書ですが、キリストへの忍耐と信仰を保つ者には慰めと希望が与えられます。

II 天からの声(13)

① 書き記せ(1:11,19)

天からの声は神から発せられ、使徒ヨハネに見聞きしたことを書き記すよう命じています。諸々の聖徒たちに大切な使信を確実に伝え、厳しい現実の中で励ますためです。「死者は幸い」とは驚くべき言葉です。この逆説的な幸いはマタイ 5:2-12 にも見られます。

② 主にあって

主イエス・キリストの権威と支配の中に自ら信じ委ねる者の死は終わりではなく、永遠のいのちが約束されています(ヨハネ 3:16)。キリストが与えられている「今から後」には、これが定説となっています。それを一人ひとりが自分のものとして受け取ることが大切です。

III 御霊の声(13)

① 解放と安らぎ

永遠のいのちへと移された主にある死者は、地上における様々な労苦と悩み・痛みから解放されて、主の御許で安らいでいます。9-11 節には神に敵対する「獣」を拝み、その刻印を受ける者には安らぎがない、という描写があり、聖徒たちに忍耐と信仰を促します。

② 行いがついて行く

永遠のいのちを保証するのは、善い行いではなく、キリストへの信仰です。死をもって地上生活は閉じられますが、その人の地上での行いは死後の世界について行き、キリストの御前で各々その報いを受けるためにさばかれるのです(IIコリント 5:10)。

〈おわりに〉 天からの声の使信に、御霊は「しかり」と呼応しています。私たちはどう応答しているでしょう。先に天に移された聖徒たちは、私たちに模範を残してくださっています。私たちも御霊とともに「はい、私もあなたを信頼します」との信仰の告白を日々新たにしましょう。(H.M.)